

既成政党が日本の政治を弄断し、社会に總ゆる害悪を放げつゝある事は、政治ではない、政党でない、單なる私党である、これを放任して無関心の態度を採るとするなれば日本の革新は断じて望めない。

合理、合法的なる、革新は政治的運動が極めて有効適切である、吾々が産業上に正しき精神を主張し行動すると同時に、許さるゝ限りに政治上に行動し、先づ誤まれる、害悪なる、既成政党の勢力を打破しなければならぬ、茲に、吾々は政党の必要を主張し、左の如き要求を持つ

一、國体を尊重し、國情に即する事

二、資本主義經濟組織内の弊害を認め其の改善を主張する事

三、労働者の經濟的立場を理解し其の動向に協力する事

四、國民の覺たる事

兎もすれば、日本の政治は政米の議會万能主義となり、政治的權力を惣まゝにして、私党化し、國家、國民に幾多の害悪をなしつゝある、明にこれは、日本國民として、皇室の鴻恩に及する、非國民的精神の結果である。

である。

吾々は党が、國家の公僕とし、上は

陛下に盡忠の誠を被歴し、國家の繁栄を念願し、國民幸福のために劇れて倦ら止むの熱意を有さなければならぬ、見よ日本の憲政史は、徒らに金融財閥の走狗と化し、國民怨府の的となつて居る。

殊に党は近代文化に、貢獻し工場に、礦山に、海上に働きたつゝある、勤勞階級の日常生活が、如何に不安極まる立場に置かれつゝあるかを、深く理解しなければならぬ、發國団体が、國民運動の名に依つて労働階級の經濟的立場の不遇なる、改善運動を無視するが如きは、吾々の支持する政党の断じて採らざる處である。

更に党は、党のための党であつてはならない、國民の党であり國家の党でなければならぬ、故に労働者のみの階級政党に反対し、隨つて労働者の獨裁には又反対しなければならぬ、此点は、國際的日本の立場より階級の利害のみを代表する、階級政党の存在は、階級対立を激発し